



支部だより

No. 164

日本山岳会京都・滋賀支部

2026年9月15日

第26回 五支部合同懇親山行 ①コース

古道復興「道宗道」をあるく

八乙女山 標高756m

富山支部主催
(富山、石川、福井、岐阜、京都・滋賀) 支部

中塚智子

五支部合同懇親山行に初めて参加してきました。場所が、富山ということで興味津々。初参加なのでどんな方と会えるのか、どんなことするのか、講演会も、です。

滋賀・京都メンバー5人で集合して一路、北陸へ。受付15時には、まだ時間があるので、雨晴海岸によりました。春霞の中、海越しの立山連峰を望みました。感動！歩きたくなりました。

受付で、今後の予定や部屋割りなどを聞いてから、先ず、講演会“道宗道を歩く”楠規夫氏のお話を伺いました。

古道 道宗道は、行徳寺から井波の瑞泉寺、南砺市のへそを通る、名前の由来となった念仏者・道宗、蓮如上人、五箇山、たいらスキー場、赤祖父山など、歴史を感じるとともに、懐かしい響きの言葉をたくさん聞きました。以前、富山に住んでいたの、砺波は砺波、井波、城端、福光などが合併して名前が変わって南砺市は、私にとってなじみのない名前でした。それでも、歴史を経て、村を繋ぎ古道が復興されたという、パワーと労力は凄い！と感じました。明日の八乙女山に期待です。

懇親会は、地元のお酒の飲み比べ、すき焼きからスタートして、こぶしめ、大きなばい貝、など



やおとめやま
八乙女山山頂にて

美味しい夕食に舌鼓を打ちました。もちろん、温泉も。

翌日は、温度が上がるということで、主催者から渡されるお弁当は、保冷剤つきアルミシート袋いりでした。

八乙女山756mは、スタート地点 閑乗寺公園が267m、標高差500mがなかなか・・・暑かった。救いは、樹林の下で日陰であったということ。整備された階段、登山道、ウツギ、イワカガミ、チゴユリ、セリバオウレン（ミツバ？）、ヒメシャガ、つぼみのササユリ、（春をもう一度、感じました）新緑のブナ林、とても気持ちよく、急登坂楽しみ（？）しました。

他府県の方とお話したり、出会ったり、JAC活動の広さを、感じました。

第 26 回 五支部合同懇親山行 ②コース

三 条 山 標 高 335m

富山支部主催
(富山、石川、福井、岐阜、京都・滋賀) 支部

津田美也子

庄川右岸の三条山は京都の名勝、嵐山にたとえられ、砺波嵐山と呼ばれている。ということ、ここからそう遠くない小矢部の生まれで幼少時より庄川峡は幾度となく訪れ京都に来てからも富山の山はよく登っていたのに)、今回初めて知った。

いや三条山そのものを知らなかったです。

メンバーは当方、伊原さん含め 7 名。富山支部の CL 瀬川富士夫さん SL 山田信明さんの車に分乗して 閑乗寺公園展望台で散居村を眺めてから、登山口に移動。三条山は南北朝期の千代ヶ様城(ちよがためしじょう)、現存する城跡は戦国期の縄張りとのこと。山道には珍しいキクバオウレン、キンランなど見受けられ日本山岳、スポーツクライミング協会自然保護指導員の CL 瀬川さんの説明を聞きながら山頂に向かう。歩きやすい山道ではあったが、2 月末に大腿骨骨折して 3 カ月もたっていない、SL 山田さんが後尾で気遣ってくださった。

頂上に立つと、庄川、日本海方面の斜面は木立がきれいに伐り取られ、細長い展望台使用禁止に登らずとも展望が得られる。眼下の庄川の流れと雄神橋は、何か京都、松尾山からの 渡月橋と大堰川のような。故郷での家族の行楽は庄川へ、温泉に入って食事して、大きくなってからは庄川へ鮎食べにと 庄川峡は富山砺波の嵐山だったのだと、今にして思えた。散居村の眺めは、閑乗寺展望台からの趣とはまた違い、伐り取りが残された左右の木立が額縁となり、なかなか良い。黄色のパッチワークは大麦への転作。水田の散居村の眺めがちょっと変化していた。



閑乗寺高原展望台

頂上直下の伐採斜面には蕨。

岐阜支部女性 3 人は蕨採りに夢中(ここで転げたら大変と私は見ているだけ)、往復 35 分が 2 時間となってしまったが、少人数での楽しい懇親山行となった 庄川水記念公園でお弁当を広げ、お宿に送ってもらい、9 月立山での全国支部懇談会での再会を約して解散となった。

その時には元気になって参加できますようにと念じて。

実施日：5 月 17 日(日)～18 日(月)

場 所：庄川温泉となみ野庄川荘 一萬亭泊

山 行：①八乙女山コース

②三条山コース

参加者：幣内規男、駒井治雄、伊原哲士、
松下征文、津田美也子、竹下節子、
矢野達子、中塚智子(総勢 50 名)

活動報告

◎ 鈴鹿10座を歩く

土井文雄

鈴鹿山脈というと三重県側に多くの登山口があり登山道も整備されアクセスもよく中京圏の山というイメージが強い山域です。

ですが、県境を成す稜線の西側は滋賀県となり地形図を見てもお分かりの通り三重県側と比較して緩やかで奥深い裾野が広がっており動植物の多様な生態系が育まれそれを活かした独特の文化と生活が受け継がれてきた背景があります。

鈴鹿10座は2015年に東近江市が東近江市側から登れる山として北から御池岳、藤原岳、天狗堂、竜ヶ岳、日本コバ、釈迦ヶ岳、銚子ヶ口、イブネ、雨乞岳、御在所岳が選定されました。

東近江側からのルートで10座全てを歩いてみようという企画です。ヤマビル発生時期を避け足かけ二年で10座達成のつもりです。

第一回 鈴鹿10座を歩く

1座目 「日本コバ」 934m

4月18日(土)

土井文雄

「奥永源寺溪流の里道の駅」にて待ち合わせして藤川谷コースの登山口へ移動してスタート。

若葉が芽生えた木々が立ち並ぶ深い谷沿いで目にも耳にも涼感が漂うコースです。

村上さんは若かりし頃一度だけ登った事があるらしく「何十年ぶりやろなあ、殆ど記憶に無いわ」と笑顔でつぶやきながらゆっくりと歩を進めています。僕はこれまで鈴鹿10座エコツアーリズムガドでの沢登りや登山道整備などで登った事があり今回で4回目です。

藤川谷が分かれて細い水流に導かれて山頂をめざしていき鎖の岩場を登ると「奇人の窟」と名付けられた岩屋が現れます。十畳程度の広さがあり当然中は薄暗く、コウモリがいる事もあるらしいですが僕は出逢った事はありません。「村上さんも入りますか?」と尋ねると「俺はええわ、こういうとこ嫌いやねん」という答え。村上さんにも怖いもんがあるんやなと思わず笑ってしまいました。

沢好きな二人が登ると連続して現れる小滝を見て沢登りでまた来たいなあと思ふと自然と口から出ます。



日本コバ藤川谷 奇人の窟入り口

奇人の窟を過ぎると広い山頂エリアになります。大きな外輪山となっており樹間から反対側の稜線が僅かに垣間見る事が出来ます。小さなアップダウンを繰り返しながら40分ほどで日本コバ山頂に到着です。時刻はまだ11時前でしたが昼食を取りしばしの休憩。山頂は全く眺望がないですが北斜面にある一本杉が印象的です。

下りは登りルートの途中から分岐して政所道へ。急斜面の杉の植林帯に作られた道を黙々と下り古い民家が見えるとそこが政所集落。集落の周囲は政所茶の畑が広がっています。

茶の木は原種で今もなお無農薬で栽培され手摘みで採取されたものだけを政所茶として道の駅などで限られた販売されています。機会があれば是非お召し上がりください。

あとは舗装路を歩き駐車場へ戻り終了。

実施日：2026 年 4 月 18 日(土)

参加者：村上 正、土井文雄

第二回 鈴鹿 10 座を歩く

2 座目 「天 狗 堂」 988m

— 日本コバ —

5 月 9 日(土)

土井文雄

鈴鹿山脈の主稜線からは外れるが独立峰のような美しい円錐形の山容から鈴鹿富士と呼ばれ御池岳のボタンブチからはその姿がはっきりと見えます。その山容から上昇気流が発生しやすくイヌワシやクマタカが旋回する様子を見る事も出来ます。

登山口のある君ヶ畑集落は木地師の里と知られ、木地師の祖である惟高親王ゆかりの大皇器地粗神社を挟み両側に登山道があります。

8 時過ぎにスタート。

つづら折りの道を歩くと大ケヤキの並木道が現れすぐに宮坂峠に到着し稜線に出ます。緩やかに標高を上げていくともう一つの登山道と合流して自然林も増えて徐々に急斜面になってきます。山頂に近づくと岩場が増え、更に厳しい急傾斜の登りとなりますが慎重に歩くとシャクナゲが満開の姿に出会えました。

そこからすぐに小さな看板がある山頂です。

名前の由来は年に一度全国の天狗が一堂に会するとの説もありますが本当でしょうか？

前回の日本コバ同様天狗堂山頂も眺望はありませんが、50mほどサンヤリ方面に向かうと展望岩がありそこからは鈴鹿山脈最高峰の御池岳を正面に竜ヶ岳まで主稜線の山並みを堪能出来ます。



天狗堂登山口 杉の大樹立つ大皇器地粗神社

山頂に戻ると賑やかな声。愛知県から来られた十数名、70 代半ばの元気な女性達でした。街でも山でも女性は高齢になっても活発で元気ですね。お先に失礼して来た道に戻り宮坂峠まで行かずに尾根出合いから大皇器地粗神社に無事下山。

君ヶ畑は御池川沿いにあり各戸に井戸水が豊富に溢れ出ている集落です。木地師の里で博物館もあり、まだまだ林業が盛んで独特の文化が継承されていて集落を散策するのも良いかもしれません。

今年度は 9 月 26 日(土)竜ヶ岳、10 月 17 日(土)雨乞岳、11 月 14 日(土)釈迦ヶ岳を予定しております。残る 5 座は来年度にて計画します。ふるってご参加ください。

実施日：2026 年 5 月 9 日(土)

参加者：村上 正、土井文雄

山岳展望と秘湯の旅

剣山 1955m

藤綱珠代



「山男山女」

GWの終わり、四国の山へ行った。剣山 1955m。初めての四国の山である。

四国へは何度も訪れているが登山は初めてだ。

前夜、仕事を終えてから三人の殿方と京都から神戸の夜景を抜けて夜の海の上を車で走り徳島県へ入った。街を通り過ぎると灯りは少なくなり、夜は暗闇を増し、山間部に入る。鹿が、時おり現れるので、運転手は気が抜けない。夜道はくねくねと、車を山へ誘う。私は後部座席で睡魔に誘われる。気がつけば、剣山登山口見ノ越駐車場に到着していた。今回はリフトを使っての登山なのでリフト稼働時間まで睡眠が確保できる。早々に皆、眠りにつく。翌朝、生憎、晴天とはいかなかったが高曇りで気温もいい感じである。ブランコみたいな可愛いリフトに皆ちょこんと座り、ゆらゆらと標高 1750m の西島駅まで運ばれていった。ここからはゆっくりと登っていくのだが、初めて見る四国の山並みに心を奪われていく。

殿方達は少々お疲れ気味のようだ。山頂手前の「刀掛の松」の分岐に登山道案内板があり、真っ

直ぐ行けば山頂、剣山本宮宝蔵石神社、左へ行けば行場経由で山頂。ここで二組に分かれて進むことにした。お疲れ気味の支部長と事務局長はゆっくりと山頂へ。私と松崎会員は行場コースに行くことにした。地図は見ていたのだが思ったより登山道は下っていく。内心上り返しを心配しつつ30分ほど行くとパツクリと割れた岩の隙間があり、しめ縄がかけられていてツルツルの岩に行者鎖が垂れていた。見た瞬間「わっ」と、なった。苦手な分野である。私の体重、技量が場にそぐわないような気がした。松崎会員は涼しい顔をしている。さすが本職の和尚でクライマーだ。六根清浄。腹をくくって鎖を頼っていく。足がすべる、靴が嵌まる、その度に松崎会員の的確な指示で頑張ることができた。感謝。約15mほどの鎖場をぬけると今度は岩場と急登が。二人とも汗だくになってしまった。ようやく山頂に辿り着き支部長、事務局長と合流。



「六根清浄」

三角点で記念写真。三角点の向こう側の景色を見たとき感動が駆け巡った。次郎笈への稜線に釘づけになった。ああ、この道を歩きたい、欲望

が芽生えた。目標ができた。名残惜しく下山。

帰りはリフトで降りるメンバーと、残りのメンバーは登山道で下山。信州や本州とは雰囲気が異なる山を味わいながら歩く。立ち枯れの樹と新緑。リフト見ノ越駅で全メンバー合流、車に乗り込み温泉へと急ぐ。川沿いの山間部に幣内支部長のお目当ての温泉「劔山木綿麻温泉」があった。美人の湯だそう。さっぱりと生まれ変わり、今宵の宿「ブルーヴィラあなぶき」へ。美味しいご飯を頂き、温泉につかり、ますます美男美女になった。

翌朝、快晴の青空の下、淡路島を観光し、お洒落なカフェを幣内支部長に案内してもらい青い海を見ながらパンケーキを食べた。山男と山女の素敵な山行となった。

実施日：令和8年5月8日(金)～9日(土)

参加者：幣内規男(L)、伊原哲士、松崎宜晃、
藤綱珠代

◎歴史と文化の山旅

奈良県山添村

「神野山(こうのやま)の星空を訪ねる」

伊原 哲士

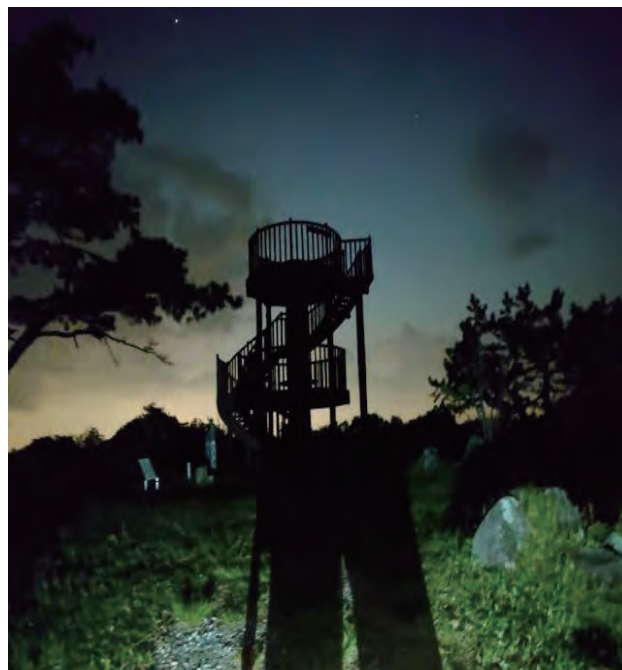
日本には星空観察のスポットは数多くあります。星空観察は阿智村(長野県)が有名ですが、遠いです。関西は大台ヶ原がありますが、泊まりでないと難しい場所です。関西は他にも、日帰りで行ける素晴らしい天体観測の隠れた聖地があります。奈良県山添村の神野山です。昼間はハイキングで賑わう神野山も夜は星空という別世界が広がります。

歴史と文化の山旅「神野山の星空を訪ねる」は、2024年10月4日、2025年12月20日に画しましたが何れも「日頃の行いが悪く」曇天になり中止になりました。今回は再々挑戦です。

奈良県山添村にある神野山は山頂に展望台があります。フォレストパーク神野山の森林科学館から鍋倉溪を経て神野山山頂展望台の徒歩1時間の登りが一般コースです。今回は神野山「星空観測」なので、地元の日本山岳会会員の福山茂光(関西支部所属)さんに車で山頂近くまで行けるルートを案内してもらいました。神野山は小さい車が通れる道が複雑にあります。急勾配でもあり、夜間は熟知していないと脱輪などの悲劇がおこります。

また、昼間ですが神野山山麓の農地での熊出没情報もありました。

近鉄大和西大寺駅で17時に待ち合わせた上野陽子さんと岡田輝子(関西支部所属)さんを私の車に乗せて、フォレストパーク神野山の森林科学館に到着。18時過ぎに待ち合わせの福山茂光さんと合流しました。福山さんの案内で神野山山頂展望台手前の駐車スペースに18時30分頃に到着。本日の日没は19時7分です。19時30分くらいまでは残照が残り明るい。そこから徒歩200mくらいで山頂展望台です。



山 頂 展 望 台

展望台の少し手前に神野山(618m)の一等三角点があります。ここで全員の記念撮影。展望台に登り軽食を摂りながら日没後の星空を待ちます。



一等三角点にて

福山さんに熊の出没のことを聞くと、「北斜面の農園に居るみたいだけれど、昼間だけ。この時間は大丈夫だよ」と笑います。

西の空に輝く星が見えます。木星かなと思いましたが、後で調べると宵の明星の金星でした。

19時30分を過ぎると頭上には北斗七星が浮かんできます。北斗七星から北極星の位置が確認出来ます。南の空には春の大三角の3つの明るい星（アークトゥルス、スピカ、デネボラ）が観測できます。

山頂展望台は町の光がなく、夜空に少しずつ星が浮かび上がる星空の風景は圧巻でした。

天の川は深夜0時過ぎでないと現れないので、今回は断念。

8時30分過ぎに車に戻り近鉄西大寺駅で解散しました。

実施日 2026年5月15日(金)

参加者：伊原哲士(L)、上野陽子、

岡田輝子(関西支部)

福山茂光(関西支部)

◎歴史と文化の山旅

奈良県安堵町『案山子公園』と

『斑鳩の古代遺跡』を訪ねる

伊原 哲士

JR 法隆寺駅に朝10時集合。晴天ですが、暑くなる気配。熱中症に配慮しての行動となります。

法隆寺駅から徒歩30分くらいの場所にある安堵町「案山子公園」に向かいます。そこには12mにもなる巨大な聖徳太子像の案山子が佇立します。公園内にはユニークな案山子がたくさん設置されていたはずでしたが見当たりません。

安堵町の文化観光館「四弁花」に立ち寄りしました。文化観光館の方に、「案山子公園に聖徳太子像以外の案山子が見当たらない」と尋ねると、「少子化で案山子作る後継者がなく中断している」との説でした。



聖徳太子像と集合写真

参加された上野陽子さんが、「安堵町出身の陶芸家で文化勲章受章者の富本憲吉の記念館があったはず」と尋ねると、文化観光館の方は、現在記念館はなくこの隣の富本憲吉の生家が高級料理店になっており一部展示されている」とのことでした。

安堵町は面積4.31平方キロメートル。大阪府忠岡町、奈良県三宅町について日本で3番目に小さい面積の自治体です。安堵町は西側には富雄川、南側には大和川が流れ水害に遭った地域という。米作りが中心だが、水害に遭った被害を少しでも緩和させる為に藺草作りも盛んだという。



藤ノ木古墳

藺草は畳表などに使われる。藺草は別名「灯芯草」とも言う。油を燃やす灯火で明りを採っていた頃、藺草の花茎の髄を灯芯として使っていた。

今でも和蝋燭の芯の素材として重用されています。これらの説明が次に訪ねた安堵町歴史民俗資料館に詳しい。

法隆寺方面に戻り、藤ノ木古墳を訪ねた。藤ノ木古墳は法隆寺の近くに在った為か、盗掘を免れた。家形石棺に二人の成人男性が合葬されていた。

被葬者はヤマト王朝の首長である大王（おおきみ）の何れかとされる。二人の被葬者については、『日本書紀』が記す587年6月の暗殺時期の記述などから、聖徳太子の叔父で蘇我馬子に暗殺された穴穗部皇子と宣化天皇の皇子の宅部皇子の可能性が高いと論じられてる。（前園実知雄奈良芸術短期大学教授・白石太一郎奈良大学教授）

斑鳩町文化財活用センターに立ち寄り藤ノ木古墳被葬者の石棺内部のレプリカを見学した。

正午の昼食時間が大幅に過ぎたので、奈良県立民俗博物館に移築保存されている古い奈良県の古民家を訪ねた。ここで遅い昼食を摂り、古民家巡りの歴史談義。

歴史と文化の「山旅」なので、最後に近くの松尾山に登ろうと思ったが、暑気と過酷な行動だったので断念。15時頃に散会した。

実施日： 2026年6月6日(土)

参加者： 伊原哲士(L)、上野陽子、
岡田輝子(関西支部)

第 22 回安全登山講習山行

福井 護摩堂山 1152m

「スキー・ワカン山行」㍿

矢野達子

3 年ぶり 2 回目の山スキーに挑戦した。

福井県の護摩堂山 1152m ！！

まさか山頂までたどり着けるとは思ってもみなかった。スキーで下りてこられるとは思っていなかった。

林道の最終地点から急登になるので、須藤さんが「滑るのに自信がなかったら、ここにスキーを置いて、壺足で登って行ったら。」とアドバイスをされたので、「はい、そうします。」とスキー板を林道の最終地点にデポして壺足で山頂を目指した。

山スキーの 1 回目は 3 年前に京都府山岳連盟の山スキーで氷ノ山に行った時だった。山岳会で雪山に行くようになり、ワカン行。ピッケル、アイゼン 12 本爪も使ったの山行も慣れてきて、いつか雪山でスキーを滑ってみたいとなった。山スキーに挑戦してみたいとなった。

自分の大学時代、スキーがとても流行っていた。

自分もバイト代のほとんどをスキーにつぎ込んで遊んでいた。信州に何度も何度も友達と通ったものだ。しかし、あれから何十年も経っているのに、頭の中は 20 代のままですすっと案外簡単に滑れるつもりでいた。しかし、年月の流れは怖いものだ。

身体が全く予想と違った。自転車や水泳は一度身体が覚えたならまたできる！スキーもできるものと思っていたが、違った！？怖い！！初めて氷ノ山へ行った時、ほとんどスキーを担いで、上がり、担いでおりた。2, 30 メートル滑って終わった。

初めての山スキー。先ずシールを貼っての歩行が上手く歩けなかった。スキー板を滑らせるように歩くと教えてもらってもなかなかうまくいかない。ついスキー板を浮かしてしまう。特に方向転

換して上に登っていく時がうまくいかず、そこでスキー板を浮かしてしまい、方向転換がうまく出来なかった。時間切れで山頂までたどり着けなかった。ほとんど滑ることなく、スキーを担いで登り、スキーを担いでおりた。



林道最終地点までの登り

それが今回スキーにシールを貼って、林道最終地点まで登れたのだ。ほんと嬉しかった。できる限り、スキー板を浮かせないように、ツルツル滑らせながら登っていった。「少し急坂では、踵の方に力を入れて登ると登りやすいよ。」という須藤さんのアドバイス通りにすると登っていった。ほんと感動だった。嬉しかった。

林道最終地点でスキーを外して、壺足で登り始めると、スキー板でのぼるのがどんなに楽だったか実感した。壺足で何回も雪の空洞にハマりながら山頂に到着した。他のメンバーが休憩をとって下山されるところだったが、メンバーの元気な顔を見て安心した。

少し昼休憩をしてまた林道最終地点まで戻った。

スキー板を履いて滑ってみたが、なかなかうまく方向転換できない。斜滑降、方向転換、斜滑降、

方向転換、、で滑っておりた。そして後半林道を滑っておりた。ワカン行で先におりられていたメンバーに追いつく。「お先に～」と追い越していく。スキーはやっぱり速い。いい気持ち。

須藤さんには「もっともっと滑る練習をせなあかん」と言われた。その通り。頑張ります。でも、スキーが楽しいし、とても気持ち良かったです。ご指導ありがとうございました。

若い大学時代のように家庭の仕事をほっぽらかして1シーズンスキーに浸って練習したいものです。



下山地の駐車場

実施日：2026年3月7日(土)～3月8日(日)

参加者：須藤邦裕(L)、幣内規男、駒井治雄、伊原哲士、三木千津子、栗野雅己、前川朋子、上野陽子、矢野達子、大窪公三(会員外)

23回安全登山講習山行

金 毘 羅 山

－クライミング講習－

石附憲人

4月5日(日)、京都府の金毘羅山にて実施された安全登山講習山行に参加した

今回は外岩でのクライミング練習を行い、私自身にとって初めての外岩経験となった。これまで主に室内でのボルダリングを中心に練習していたため、自然の岩場でのクライミングは非常に新鮮であり、多くの学びを得る機会となった。

室内のボルダリングでは、一般的に課題ごとに決められた色のホールドを使用して登るが、外岩ではそのような明確な目印はなく、自分自身で手や足を置ける場所を探しながら登る必要があった。そのため、単純に身体能力だけではなく、岩の形状を観察し、どこを使えば安定するかを考えながら登ることが求められた。自然の岩には同じ形がなく、細かな凹凸や岩の向きを利用して登る必要があり、室内クライミングとは異なる難しさと面白さを感じた。

特に印象に残ったのは、自分で掴める場所や立ち込める場所を探しながらルートを組み立てる過程である。初めのうちは、どこを使えばよいのか分からず思うように登ることができなかった。しかし、経験豊富な先輩方から身体の向きや重心移動、足の置き方について具体的なアドバイスをいただくことで、徐々に登れるようになった。登れなかった箇所を登れた時には大きな達成感があり、室内ボルダリングとはまた違った楽しさや魅力を感じることができた。また、外岩では高さや周囲の環境も室内とは大きく異なり、安全確保においてはまだ理解不足な部分が多く、自身の経験の浅さを感じた。

一方で実際の岩場でクライミングを行うことで、安全確認や仲間との連携が非常に重要であることを学ぶことができた。

今回のクライミング会を通じて、外岩ならではの魅力や難しさを知ることができるとともに、今後さらに経験を積みたいという意欲が高まった。今後もこのような機会があれば積極的に参加し、



初めての岩登り

登攀技術だけでなく、安全確保やロープワークについても学びを深めていきたい。また、クライミングを通じて培った身体の使い方や判断力を、今後の登山活動にも活かしていきたいと考えている。

実施日：2026年4月5日(日)

参加者：須藤邦裕(L)、池ノ内直樹、上野陽子、松下征悟、村上 正、三木千津子、前川朋子、石附憲人、本部ユース2名

第 24 回安全登山講習山行

皆 子 山

－地図読み講習－

田中佳洋

朝 5 時半には窓から陽光があふれていた。

きょうは京都府最高峰、皆子山での読図山行。

7 時半に京都駅で栗野さんとともに松下さんの 4 駆にピックアップしてもらい、堀川通りを北へ、静原を経て大原街道へ出て、コンビニで須藤リーダーはじめ他の参加メンバーと落ち合った。リーダーの車に先導されて小出石から百井の集落を抜け、北山修道院村の入口の駐車スペースに着いたのは 9 時ごろ。

足元などの準備を整えてから、リーダーより 2 万 5 千図『花脊』を広げて読図の基本知識の講義とルート確認があり、栗野さんからコンパスの使用について技術的な説明があった。コンパスは胸元で測り、身体を回して地図の磁北線と平行するように整置する。リーダーの昭和 56 年版地図の西偏 6 度 40 分と、田中の平成 28 年版のそれは 7 度 30 分で、35 年で 1 度近い差があり、磁北が徐々に動いているというお話も興味深く聞いた。

各自、周囲の景観と地図上の現在地が一致したところで 9 時 25 分出発。駐車場所からすぐ、上野さんを先頭に『北山修道院』の表示がある建物の西側の尾根に取付いた。今回は上野さん、前川さん、私が生徒で、地図読みを教わりながら一般登山道でない皆子山の西尾根からピークを目指す。ずっと尾根を辿るルートで、最初のピッチは地図上の標高 819m 地点を目標にした。560m の取付きから標高差 260m の上りである。

初めから背の低い灌木の間に踏み跡がある。杉の植林を抜けると小石がざらざらの急斜面。上り詰めると傾斜が緩くなって目標と思われる地点に着いた。ここまで 35 分。

地図とコンパスを出して次の 840m 地点の方向を確認してから進んだ。

840m 地点についてまた方向確認。ここは東西に尾根が大きく張り出していて、次の目標 889m の方向を見定めないとすっかり支尾根に迷い込んでしまいそうな地形だ。栗野さんから支尾根のあるところでは必ずコンパスと地図で方向確認するよう注意があった。

889m の地点からも支尾根が分岐し、見た目は主尾根と変わらない。ここで皆子山の山頂が目前に見えた。松下さんが双眼鏡を取り出して「人は見えませんね」代わって見せていただいた。頂上のすぐ下に草原が見え、まるで公園のよう。この後も進むにつれて皆子谷源流一帯に広がる明るいシダの原に出会って「庭師を頼んだんちゃうか」と、軽口が飛び出たほどの光景だった。

リーダーが以前この尾根を通ったときには、ササが生えていて踏み跡も珍しかったそうで、数十年の間にすっかり山の景観が変わってしまったことは、かなりの割合で増え過ぎたシカの食害が原因のようだ。見通しが良くなったとはいえ、地図の主曲線には現れない起伏が結構あるのと、時々尾根が広がって、下草が少ないためどこでも歩けそうな状態になり、快晴に恵まれ見通しも良いきょうは地形も見定め易いが、ガスに巻かれたり暗くなったりした中では迷いやすいだろうと想像した。

900m の小ピークを越えてコルに下ると、皆子山西尾根への上りにかかった。「京都高島屋の高さ登らなあかで」栗野さんの声でひと踏ん張り。次の 930m の小ピークから距離 250m ほどで尾根は左右に分かれ、方向確認して右手に進んだ。

「皆子山頂は 70° の方向を維持すれば良いが、ここからルートがややこしくなる」リーダーと栗野さんみると、先が良く見えるよ」と栗野さんが助言してくれた。おかげで大きく迷うことなく 12 時 25 分皆子山頂に到着した 12 時 25 分皆子山頂に到着した。

道中幾度も地図読みを繰り返したほか、ヤマツツジやサラサドウダンの花を愛でたりツツドリの鳴き声を聴いたり、休憩時間も含めてスタートからちょうど 4 時間だった。



皆子山山頂にて

山頂で昼食を摂ることにしてゆっくりした。

雲ひとつない青空の下、遠くまで見渡せる絶景で琵琶湖や武奈ヶ岳もはっきりと眺められた。

薫風の中で展望を楽しみながらの昼食は格別だった。

居合わせた登山者に集合写真のシャッターを押してもらい、13 時 7 分下山を開始した。

下山時も上野さんと前川さんが交代でトップを歩いた。一ヶ所直進する地点を左に折れてしまい、生徒 3 人はそのまま行きかけたけれど、栗野さんの声でリーダーが止まっていたのに気づき、あわてて戻る場面があった。それからは慎重に、見覚えのある岩や立ち木、キノコ、動物のフンに、帰りのルートに違いないと確信しながらどしどし下って、途中の休憩は 1 回。約 2 時間で 15 時 15 分に駐車場所に帰り着いた。

今回の山行も、リーダーと栗野さんのご指導と、素晴らしい天気のおかげで、地図読みのスキルアップとともに新緑の山歩きを満喫させていただいた。



皆子山山頂から武奈ヶ岳

個人的な話であるが、40年近い昔、皆子谷でスズメバチに頭と腰を刺されて、以来近寄れなかった皆子山に最高のシチュエーションで再登でき、長年のトラウマを払拭することができた。ぜひ、また別の季節に(冬以外はハチの巣を踏まないように気を付けながら)登ってみたいです。

実施日：2026年5月10日(日)

場 所：皆子山西尾根

参加者：須藤邦裕(L)、栗野雅己、三木千津子、
松下征悟、上野陽子、前川朋子、
田中佳洋

第25回安全登山講習山行

比良元気村人工壁

ークライミング・ビレイ講習ー

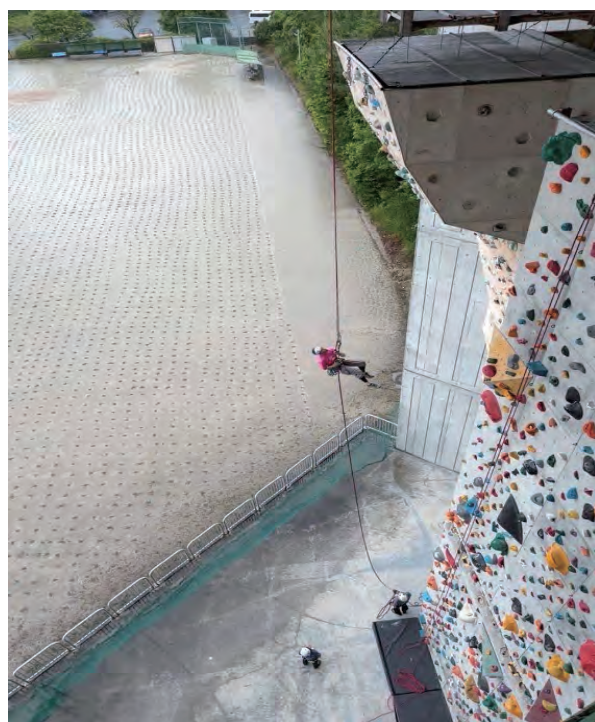
前川朋子

今回はビレイ講習ということで、ずいぶん前からとても待ち遠しかった。

クライミングが楽しくなって、積極的に講習会や練習会に参加するたびに、ビレイができないことで負い目を感じていたので、今日こそぜったいにマスターすると心に決めて臨んだ。

いつからこんなにクライミングにはまったのかと支部だよりを読み返してみた。

2025年9月のクライミング講習会の感想文に、昨年12月に初めてクライミングを体験して以来2度目の参加と書いてあり、クライミングの楽しさに気づいたとある。それからは、ほぼ毎回クライミング講習会に参加し、ときどきカメロックスや福井こども家族館(クライミングウォール16メートル)の室内練習などにも誘っていただき、今に至っている。



懸垂下降の講習

今回参加したのは、わたしが知る限り、京都滋賀支部トップクライマーベスト3の顔ぶれ。

ビレイ講習が必要なのはわたしだけ。

須藤さんは、これを配慮して、2日前にマンツーマンで個人レッスンをしてくださった。

その日は梅雨空のどんよりした蒸し暑い日だったが、金毘羅山の緑たちは生き生きとしていて元気をもらえたし、待ちに待ったビレイ練習を、人生2度目のマルチピッチクライミング実践の中で学ぶことができたから、喜びのあまり疲れを感じなかった。

そして、今日の講習会は朝から大雨だった。



ビレイの講習

屋根のある人工壁でも雨が振り込んでくる中、さっそく懸垂下降の練習から始まった。

アンカーの設置方法、懸垂下降のためのセットのり方、安全確認と注意事項など、覚えることがたくさんある。

須藤さんのお手本を見てから、いざ懸垂下降をやってみると、ガクンガクンと衝撃が走り、スススッと降りていくのには程遠い。ハーネスに座るように力を落としたり、ロープを持つ手の位置を変えたり、いろいろ試してみてやっとススッと降りていく感覚をつかむ。2回目は少しだけススッと進めた。壁を使わず、空中での懸垂下降の練習もあったが、宙吊り体験などまったく初めてのことで、怖いというより夢を見ているような不思議な気持ちだった。

次はビレイ講習だ。ロープの送り出しや取り込みのタイミングをつかむのに手間取り、もたもたしてしまう。これでは、リードするクライマーにとっては命取りになりかねない。

まず、トップロープのビレイを確実にできるように練習しようと思う。

須藤さんより、クライマー墜落時の衝撃力を経験したほうが良いとアドバイスがあり、クライマーにわざと6メートルほどの高さから墜落してもらったが、自分の体がもっていかれてしまう衝撃に驚いた。セルフアンカー構築のひと手間が必要なケースもいずれ出てくるだろうから、十分見極めたい。

9時半から15時半までみっちり内容の詰まった講習会にとっても感謝している。須藤さんが時間をかけて何度も教えてくださったことをどんどん活かしていきたい。また、三木さんと征悟さんにもたくさんアドバイスをいただいた。本当にありがとうございました。

最後に、たまちゃんが差し入れてくださった甘いご褒美がとてもうれしかった。ありがとうございました。

実施日：2026年6月20日（土）

場 所：比良げんき村の人工登攀壁

参加者：須藤邦裕（L）、三木千津子、松下征悟、前川朋子

第26回安全登山講習山行

掃雲峰（るり溪）

－地図読み講習－

成田圭子

私にとって入会して2回目の山行行事、「地図読み講習」に参加しました。地図読みと聞いても何をするのかまったく想像がつかず、不安な気持ちでの参加でした。午前8時、JR二条駅ロータリーに集合し、2台の車に分乗して目的地のるり溪・通天湖へ。駐車場は、ちょうど私たち2台分のスペースがすっぽり収まるように空いていて、そし

て、すぐ横にはトイレと、みんなでひざを突き合わせて座れる、こちらも格好の東屋がありました。



道のない山に行く

スタートはそこで須藤さんによる講習からです。2万5千分の1地形図に赤鉛筆で書き込むだなんて、大学のワンダゲル以来か〜と、ちょっとくすぐったい、懐かしい気持ちになりながら説明をお聞きしました。まずはコンパスを使った整置から……ところが、コンパスを忘れてしまった私はいきなり出遅れからのスタートとなりました。

今回の講習は、地図上に記したチェックポイントを、2グループに分かれて順番にポイントを探していくという、まるで宝探しや謎解きゲームのような方式で、歩き始める前からワクワクでした。

いよいよ出発。最初は一般道を歩いて登山口となる①へ向かいます。ここは問題なくクリア。続く②は、ルート上にある掃雲峰山頂から尾根を少し進んだ先にある小さなピークです。山頂の尾根は一般の登山道があるようで、そこまでは地形図と実際の地形を見比べながら進む必要があり、なかなかの難関でしたが、時々須藤さんがヒントを出してくださってなんとかクリア。



チェックポイント ① ② ③ ④ ⑤

③、④は登山道沿いだったため比較的スムーズに到達。

そして最後の⑤へ。ここが一番苦戦しました。周囲を何度も見回し、「このあたりかな？」と探しましたが、最後まで確信が持てず…。まあ、だいたいこのへんというところでクリア。その後登山口①に向かい元きた場所に戻ることができました。

最後は再び東屋で答え合わせを行い、無事講習を修了しました。

②や⑤のように登山道が不明瞭な場所では地図読みの難しさを実感しました。

一方で、GPSだけに頼るのではなく、地形を読みながら現在地を考える面白さも味わうことができ、もっと色々教えて頂きたいと思える講習でした。

須藤さん、他皆様、貴重な講習をご一緒いただきありがとうございました。

地図読みだけでなく、山で色々な経験談もたくさん聞かせていただき、大変勉強になった山行でした。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

実施日：2026 年 7 月 11 日(土)

参加者：須藤邦裕(L)、中塚智子、前川朋子、
上野陽子、石附憲人、成田圭子

◎北山探訪

三 国 岳 (△959.1m)

栗野雅巳

当日朝は晴天に恵まれ、良好なコンディションの中で登山を開始した。岩屋谷・滝谷出合の林道スペースに駐車し、9時55分に出発。京都府立大学久多演習林管理舎まではなだらかな林道が続くが、そこから先の一の岩屋へ向かう谷筋では、斜面を登るロープの杭が一部倒伏しており、慎重な通行を要した。谷の山腹をトラバースして再び谷筋へ下り、そこから尾根に取り付いた。この登山道は地面が緩く、つづら折り区間には倒木もあったため、周囲の草木をホールドにしながら慎重に進行した。つづら折りを抜けた後は道幅が広がるものの、急登が続くため、適宜休憩を挟みながら高度を上げた。標高 650m 付近からは心地よい涼風が吹き、体力の消耗を和らげることができた。



一の岩屋(標高 525m 付近)

12 時 50 分に山頂へ到着、昼食を摂った。山中ではこの時に遭遇した別グループ 1 組以外に他の登山者とは出会わず、非常に静かな山行であった。



三国岳山頂 959.1mにて

【計画変更の経緯と下山ルート】 当初は往路を戻るピストン(往復)での下山を計画していたが、登りで通過した山腹の高巻き道およびトラバース区間の足元が非常に緩く、復路での通過は危険であると判断した。安全を最優先とし、急遽ルートを「朽木桑原(くつきくわはら)方面」へと変更して下山を開始した。

山頂から経ヶ岳手前へと続く稜線は新緑に包まれており、視界・雰囲気ともに良好であった。稜線から朽木桑原への尾根筋は踏み跡が極めて明瞭であり、道迷いのリスクなく計画通り桑原へと下山した。

【下山後の対応】 桑原到着後、タクシーを配車して 3 人で久多の駐車地へと移動。デポしていた自転車を回収した後、桑原で待機していた残りのメンバーをピックアップし、全員で無事に京都へと帰着した。

【行程】 岩屋谷・滝谷出合(駐車地)9:55→ 久多演習林管理舎 → 一の岩屋→標高 650m 付近 → 12:50 山頂(昼食) → 経ヶ岳手前稜線 → 朽木桑原(下山)⇒(タクシー移動)⇒ 久多(車回収)⇒ 京都

実施日：2025 年 5 月 16 日(土) 天候：晴れ

参加者：八木 透(L)、栗野雅巳(SL)、

大倉寛治郎、前川朋子、佐々木一成

スケッチ山行

「愛宕山のクリンソウを描く」

田中紀代美

初めてのスケッチ山行に参加し、山の中で花と向き合う静かな時間を過ごせました。

7時半前に JR 嵯峨嵐山駅に集合し、田中リーダーの車で愛宕山の清滝登山口へ向かった。有料駐車場に車を止め、8 時前に出発した。愛宕山の表登山道ではなく、大杉谷を源流とする堂承川沿いの林道から梨ノ木谷沿いに登って行った。晴天で新緑が深い色に変わりつつある爽やかな朝でした。歩き始めて 45 分くらい経った頃、お目当ての花である鮮やかな濃いピンク色のクリンソウが現れた。高さ 50~70cm でサクラソウに似た花が大きく目立つ美しい山野草である。事前の下見でこちらのクリンソウの咲き具合を確認してくださっていた田中リーダーから、花の形状が仏閣の屋根にある九輪に似ていることが名前の由来となっていることや、毒があり二ホンジカ等が食べないことをお聞きした。



クリンソウのスケッチシーン

クリンソウは林道に沿ってところどころに咲いていた。各々スケッチする花を選び、観察しながら鉛筆で下絵を描き絵具や色鉛筆で着色した。

沢の音と谷のしっとりした空気の中で、思いのほか集中している自分に気づいた。絵を描くのは何年振りだか思い出せないが、山でじっくり絵を描くのは初めてのことだった。花姿の全体と花が終わって蕾になった部分の 2 枚を描き、娘達の使い古した色鉛筆で着色した。気づけば 2 時間経っていた。

スケッチの後は、お昼休憩ポイントへ向けて梨ノ木沢に沿って進んだ。杉が伐採され山一面に広葉樹が植林された一帯が現れ、その後林道は細い登山道に変わった。気温がどんどん上がり暑くなった。左から流れ込む小さな沢が梨ノ木沢と合流する斜面の木陰でお昼にした。そこにも少しクリンソウが咲いていた。コンビニおにぎりを食べ終わった時、田中リーダーがフィンランド土産を振る舞ってくださった。リンゴンベリーのジャムだった。リンゴンベリーとはコケモモのことである。薄く切ったフランスパンにクリームチーズをぬりその上に綺麗な赤紫色のジャムをとろりと乗せてもらい、コーヒーとともに私は遠慮もなくかなり沢山いただいた。スケッチとフィンランドの森の恵みに既に満たされていましたが、山頂へも行くことにした。汗をかきながら登山道を登り詰めると尾根に出た。そこには首の無いお地蔵様がいらっしやった。後から写真を見返すと、お地蔵様の台石の前に置かれているのは頭のように見えた。台石には「左あたご」と彫られていた。裏参道である尾根を左に進むと開けた場所があった。ヘリポートだった。そして、その先の三角点へ回りこんだ。木々の隙間から京都市内の街や蛇行する桂川が見えた。愛宕神社までは行かず、月輪寺へ続く道から下山した。月輪寺でお参りをしていると本堂から庵主様が出てこられた。御年 79 歳になられるとのこと。挨拶をして参道を下った。

登山口に咲いていたシャガの花を見て 16 時頃駐車場に戻り、JR 桂川駅で解散した。

花の下見や画材についてのアドバイス等お世話になりありがとうございました。

実施日：2026 年 5 月 16 日（土）

参加者：田中佳洋(L)、田中紀代美

鉄路駅から

近江城山逍遙 第2回 佐治城跡、隠岐城跡

松下征文

JR 草津線寺庄駅に9時集合して出発する。今日もかなり暑い天気となったが湿度が低いので木陰に癒された。

県道を佐治城登山口に向かう田園地帯でトマト農家が即売していたので試食して水代わりに1キロ（9個750円）買ってザックに入れる。

前方や左側に小さく小高い山がいくつか見えている。これらが隠岐支城の山であろう。麓の集落に小さな道標があるがどこから入るのかわからない。先の方にいた地元の方に声をかけると道標まで戻って教えてくれた。急斜面に雑草除けのシートが貼ってありその上を歩いてもらえばよいと教えられる。これでは道と気付かないはずだ。竹林の中を行くと樹林帯の中に切り開かれたところがあり、三等三角点と明治時代に置かれたと思われる石造の祠と灯ろう、手水鉢があり歴史を感じさせる。ここが愛宕山頂（250m）だ。往時には曲輪があったと思われる。ここから西に降りると小高いところがあり佐治城跡と書いた板がある。そしてかなり広い芝生の広場もありキャンプ場となっている。ここには車で入ることができる。

愛宕山頂でカップ麺タイムとする。ここでもトマトを食べて暑さを癒すことができた。

人生最終ステージと考え再開した紫煙に憩う。

休んだ後、隠岐支城群を見て回る。隠岐城跡はお寺となっている。隠岐支城は1～4迄ありそれぞれの小山を見て回るが、私有地となっているようでずけずけとは入れない。佐治一族や隠岐一族から甲賀衆の末裔が住んでいるのだろうか立派な住宅が多い。この辺りも戦国時代には織田信長に攻められていた。甲賀衆の抵抗も激しかっただろう。信長にどのような思いで戦ったのだろうか。



佐治城跡



愛宕山山頂

実施日：2026年5月24日（日）

参加者：松下征文、上野陽子

鉄路駅から

近江城山逍遙 第3回「長比城跡」

—鉄路から長比城跡逍遙に参加して—

岡田輝子

お誘いを受けて参加いたしました。

集合は、JR 東海道本線柏原駅午前9時。

「かしわばら」と読み、まずは旧中山道を歩きます。空はどんより曇り空、風がやや強く、人っ子一人いない道路道。時折、車が通り過ぎていきます。柏原宿と栄えたことが伺える史跡が点在し、哀愁を感じて宿場の観光案内版を拾い読みし、傍を東海道本線の列車が轟音をたてての通過をカメラで追ったりして、忘れられた佇まいの中、1.3 kmを小一時間歩きました。登山口の神明神社に到着。

ここで初めて人に出会いました。熊鈴を鳴らしながら散歩中のご婦人は、熊は出ませんとのこと。神明神社の鳥居の左右に溝があり、右の溝の水は、伊勢湾に流れますと立て札があり、左には、この溝の水は大阪湾にと、ここは分水嶺なのでした。ひとしきり、水の行方に思いを馳せました。山のロマンです。

しばらく、道路の傾斜に沿って15分ほど登り、いよいよ山道へ入ります。



小 休 止

城山は例外なく急傾斜、一登りで秋葉宮に、小休止。山中の静謐な場所からは、眼下に宿場

山中の静謐な場所見上げれば、霊仙山が高い。よく整備された道は快適で、3か所に設置の大きなクマよけの鐘について、高度を稼げば、野瀬山の頂上。そして、他ならぬ長比城跡。

「たけくらべ」と読むのです。浅井長政築城、元亀元年1570年、登りついたところが、西曲輪で高土塁が細長く続いて、南西の虎口、堅堀も見られ、落城のあともそのままの様子で城跡の保存は良好のようです。長比城跡の本丸で記念撮影し、東の食い違い虎口を確認して、たのしい昼休憩。



たけくらべ 長比城跡にて

頂上391mの見晴らしは、北に伊吹山、南に霊仙山が聳えて、要所としては好位置。団欒はこちよく去りがたし頂上。3等三角点の点名野瀬山にもあいさつを終え、熊の好むドングリのできる木を覚えながらの下山。コナラ、ミズナラ、クリ、クヌギ、カシワ、アベマキ、ナラガシワ、ブナ。

熊にも遭わず、無事下山。

往路の旧中山道を戻り、マンホールに『さんとう』の文字を見つけました。かつて滋賀県坂田郡山東町で米原市と合併したという。天の川のホタルで有名なところ、マンホールは、ホタルが飛び交っている図でした。

遠路の遠足、たのしい城山巡り、ありがとうございました。

実施日：2026年6月14日（日）

参加者：松下征文（L）、上野陽子、
岡田輝子（関西支部）

今西錦司先生レリーフの集い

—直谷 北山荘—

上野陽子

9 時、京都府植物園前に集合。2 台の車に分乗し北山直谷にあるレリーフに向かう。

9 時 40 分、堰堤前着。大きなクリンソウが咲いている沢沿いに歩き始める。

100m 程は道が整備され歩き易い。4 年前の道は大荒れで、沢を歩いたそう。2km 下の工事車置場からチェーンソーを持ち道が切り開かれ、そのお陰で今は真っ直ぐ登れるようになって、本当に有り難く思う。

堰堤からの整備された道が終わると踏み跡をたどる。沢周辺に黄色の小さな花を沢山付けた木が点在し、綺麗なあとと皆さん話される。ジャケツイバラと教えて頂く。有毒だが薬効もある。

軽い傾斜を 10 分程進むと、下草の緑がいつぱいの開けた所に出た。「北山の小舎」発祥の地と書かれた案内板があった。

1927 (昭和 2) 年、西堀榮三郎氏らが、この地に山小屋を建設。京都一中山岳部が管理を引き継ぐ。1942 (昭和 17) 年 7 月、老朽のため解体。同年 9 月、いまの「北山荘」が完成した。旧山小舎は幾多の人材を輩出した。また、「雪山讃歌」に歌われている「煙い小舎」とはこの小舎のことである。2006 年 6 月 北山の会とある。今まで折にふれ先輩方が話されていた北山荘だ。少し上の方に移動していることも知る。案内板を過ぎると、今西錦司先生のレリーフがあった。その先に北山荘が見える。小高い所にある今西錦司先生のレリーフの周りを一斉に整え始める。昨年までに大きな枯木や石等は整備されているが、鎌持参の先輩は下草を綺麗に刈り取られ、力持ちの先輩方は、ずれた石を組み直しされた。草抜きや朽ちた枝葉を全部除きできるだけ綺麗にした。数十分でレリーフまわりは美しく整えられた。



今西錦司先生レリーフ前にて

先輩の軽妙なお話で、汗をかいた全員に笑顔広がる。先生のお子様方のお名前の由来も聞く。

今西錦司先生のレリーフ前に集合し、JAC の旗広げ、用意された花束を捧げ記念撮影をした。ほっとして、北山荘へ昼食に向かう。

初めて入る北山荘、入口で感激する。昭和 17 年から建っているとは思えないほど綺麗に手入れされた小屋内。4 畳ほどの土間から 12 畳ほどの広さの板張りの真ん中に囲炉裏がある。奥は階段で中段に上がれ、10 人は寝袋で並んで休めるようになっている。二方に雨戸を兼ねたすべり出し窓があり、換気しつつ外の景色を眺められる。



ベニヤマシャクヤクと北山荘

8名で囲炉裏を囲み昼食。山の話聞く。食後は小屋周りで記念撮影。窓から顔を出されたり、小屋前の小川を渡った所の赤や白の美しい芍薬と、順に撮ったりした。特に紅花山芍薬は京都北山等に多く咲く貴重な花だそうだ。山でのシャクヤクは初めてで嬉しかった。

年に一度のレリーフの会は和やかに終了し洛中に戻った。

ご指導頂いた先輩方、本当にありがとうございました。

実施日：5月31日（日）

参加者：駒井治雄（L）、大槻雅弘、

大倉寛治郎、松下征文、矢野達子、

山崎 泉、田中佳洋、上野陽子

2026年

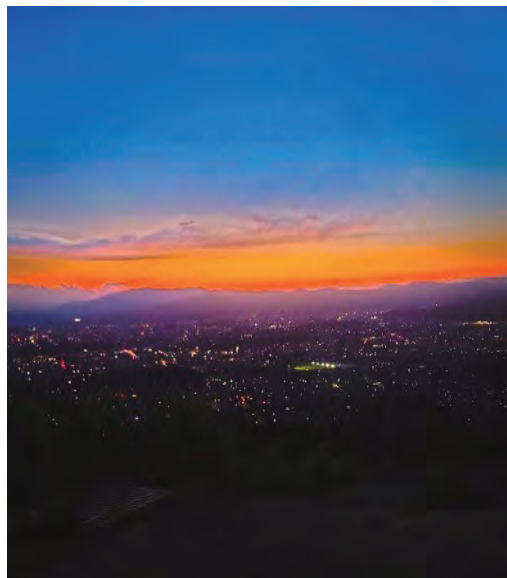
大文字納涼登山

松崎宜晃

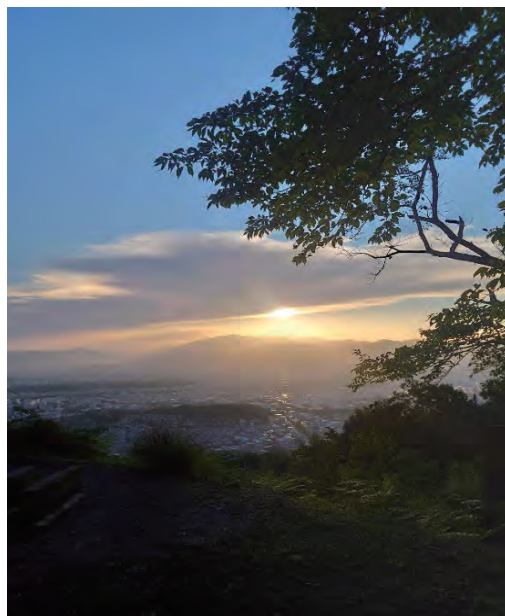
暫く呑み仲間の不調で、参加しなかった。昨年、新しい呑み仲間に誘われて久しぶりに上がってみたが、意外に人も少なく以前の様に輪になりワイワイガヤガヤでもない。ただ、他のグループや、他国の方が意外と夜の大文字火床へ上がって来る様になっている。中には懐中電灯やヘッドランプも持たない若者もいる。真っ暗な下山道はどうするのか、と思うと携帯の明りが有るのだと。何とも現代の若者感ではあるが、古い山家の感覚には無い。随分以前になるが、個人的な五、六人での呑み会で、ライトで遊んでいると、そんなの下から見えないだろうと、言う。良く見えるのだ。大学生の偽大文字送り火事件など話していると、「お前らは何者だ!」。無礼な奴が来たと思えば、銀閣寺交番の警察官。秋篠宮殿下が御所にお泊りなので皇宮警察から連絡が入り、過激派のロケット

弾を心配しての警邏に上がらせられてご立腹。

今回は仕事上がりの藤綱さんに誘ってもらい、徒歩で銀閣寺へ。集合時間に間に合わない。案の定、松下さん一人がお待ちで申し訳ないことをした。京の町の夜の灯が増えるのを眺めていると、藍野さんがひょっこりご到着。火床は涼しいが、熱い夜だった。



夕映えの京の町



西山へ沈みゆく夕日

実施日：2026年7月25日（土）

参加者：松下征文、藍野裕之、藤綱珠代、
松崎宜晃

沢登り山行

神崎川 遡行

土井文雄

快晴の猛暑日であったが暑さはどこへやら、楽しい一日となりました。

待ち合わせ時刻より早く集合し予定時間通り出発。50分の神崎橋からの林道歩きを経て入渓ポイントに到着。川の様子を見ると明らかに水量が少ない。梅雨明けしてから殆ど降水がなく足を入れると水温も高い。

取水堰堤を高巻きしてみると大量の砂利が滞積して広い河原となっていた。

以前の神崎川は10m～20m程度のゴルジュ帯を何度も泳いだり、へつったりしながら突破していく楽しさもあったが、今では少し泳いだけで岩に掴まれてしまう。



エメラルドグリーンに輝く神崎川

それでも初めての神崎川に入った岩田さんはエメラルドグリーンの水色や急に狭くなるゴルジュ帯に歓声をあげ満面の笑みである。

高巻きする事多いS字峡も今回は三人で協力しながら抜けていく。ツメカリ谷出合の手前に僕が勝手に名付けた「胎内くぐり」の大岩がある。狭い空間に勢いよく流れる水の中をしゃがんで抜けて行ける岩で、今回の水量なら無事にくぐり抜け、生まれ変わって新たな自分になったはず。

ツメカリ谷出合で休憩中に村上さんが完治していない肉離れを考慮してそこで撤退の申告。ツメカリ谷は僕と岩田さんでの遡行となった。

狭い谷となり一気に暗い雰囲気となるがきれいな小滝と淵に僅かに当たる日差しに「うわー、なんやこれー！こんなきれいなところが滋賀にあったんか＝！」と叫ぶ。



光射すツメカリ谷の滝

幾つかの手頃な滝を越えると唯一クライミング要素がある4mの滝が現れ、さっそく岩田さんがチャレンジ、なんなく突破して落ち口でガッツポーズ。

その後も簾状の斜瀑や青空に映える明るい階段状の滝、ナメ沢を通過し今回の目的地、裏見の滝に到着。高さ5mの中央部分に滝を横断出来るバンドがあり滝の裏側を歩いていける滝。ここまで登って来る人は殆どおらず見る人は限られる貴重な光景。「ヒャッホー！」と歓声を上げて通過、落ち口の広いナメの上で昼食を取ってから下山開始。高さ4mの飛び込みも躊躇しながらクリア、神崎川本流に戻ってから岩田さんはザックを前に抱きラッコスタイルで流れに身を任せニヤついている。

まもなく終了というところで「もう終わってしまうのか～」と名残惜しそうだが僕の体力はもう限界。沢装備を解除して林道を歩いていると先に

下山していた村上さんが「待ってるとやっぱり心配するもんやな」とクルマで出迎えてくれた。

帰路の途中永源寺の池田牧場に寄りジェラートで糖分補給して終了。

岩田さんは「友達に沢靴買わせて連れてきたい」「夏が終わる前にもう一回来たい」と大満足の様子で楽しい沢登り例会となりました。

実施日：2026年7月25日(土)

参加者：土井文雄（L）、村上 正（SL）、岩田萌恵

個人山行

「山頂から湖や海を眺める」 北海道の山々

土井文雄

19歳まで過ごしていた北海道を訪れる機会が出来た。高校の同窓会が網走で開催されると2月に案内が来ました。せっかくならと7/3~15まで観光を織り交ぜ登山をしようと計画を立て当初は家族旅行の予定だったが飼い犬が6月に手術をして僕は一人で敦賀港からフェリーに乗船し北海道に16年ぶりに上陸しました。

今回の登山のテーマは「山頂から湖や海を眺める」としたが、あいにく蝦夷梅雨の影響で曇りや雨予報が多くどうなるのか不安が先走りします。

苫小牧東港に夜到着し翌5日苫小牧から1時間程の支笏湖北側の恵庭岳 1320m に。登山口駐車場にはクルマが1台のみ。支笏湖周辺では樽前山が人気ですが恵庭岳は人気は今一つようです。

というのも活火山で現在も崩壊が進み山頂は立ち入り禁止となって第二展望台 1210mがゴールとなるからなのか静かな山歩きとなりました。

最初は白樺やトドマツの森を歩き第一展望台でようやく山頂が姿を見せ山頂から支笏湖に向かう。



荒々しい恵庭岳山頂



アポイ岳に咲くエゾリムラサキ

荒々しい噴火口崩壊地が目の前に現れ、そこからはロープ設置の急斜面を登り第二展望台に到着。けっこうな強風で絶え間なく雲が支笏湖に向かって下っていくが、隙間から支笏湖が確認できました。とりあえずは目的達成。風も相変わりで早々に下山して丸駒温泉に入湯し疲れを抜く事ができました。

翌日は支笏湖でサップをやるつもりだったが強風はやみそうになく次の日高山脈南端のアポイ岳登山口へと移動して海沿いの公園で車中泊。

翌朝のアポイ岳 810mは風や海、地形などの条件で五合目のわずか 380mから這松帯となり高山植物が豊富な花の百名山として人気の山。ユネスコのジオパーク認定もされており、さらに日高山脈が近々国立公園になるとの事で自然保護活動も活発なようです。登山口からしばらくはトドマツ、エゾゴヨウマツ、アカエゾマツの針葉樹とミズナ

ラ、白樺などの広葉樹の混合林から五合目にけると一気に視界が開け這松帯へ。イブキジャコウソウが登山道脇に咲き乱れ手に触れると爽やかな香りを放ち、またアポイ岳固有の花などもたくさん咲き何度も立ち止まる始末。馬の背に到着して岩稜帯となり鮮やかなエゾルリムラサキ、アポイアズマギク、背の低いハクサンシャクナゲなどが咲き誇り八合目を過ぎると雲は切れ、山頂が見えましたが、なぜかまた白樺の樹林帯となり、山頂に辿り着きます。

下山してからジオパークセンターで、地形の関係上山頂付近だけ風が弱く、樹木が育ちやすい環境だからと教えていただきました。

下りは大回りして襟裳岬まで見える雄大な太平洋を見ながらからお花畑に向かいます。固有種のヒダカソウは盗掘、鹿の食害、温暖化によりほぼ姿を消してしまい見る事は出来ませんでした。

下山途中の五合目で賑やかな関西弁の女性4人が登ってきて挨拶、話しをするとなんと長浜市から登山旅行で来られたとの事。全員で熊鈴を鳴らしてましたが、「あれだけ大きな声やったら鈴は要らんやろう」と心の中でつぶやいてました。関西オバチャンパワー恐るべし。

下山後は前述のジオパークセンターで情報収集してから襟裳岬、釧路を経由して屈斜路湖まで走りその後の二日間はサップを漕いだり、釧路湿原、摩周湖、故郷の斜里や清里で観光をして9日は斜里平野から裾野の広げる秀峰斜里岳 1547mへ。父と登り、学校登山でも登り、羅臼岳と並んで何度も登った思い出深い山です。

前日迄は雨予報もあったが目覚めると斜里岳が全容を現わしたので慌てて準備して登山口の清岳荘へ移動。ちょうど居合わせた大阪からの女性2名と大阪出身札幌在住の男性の三人と急遽同行となり7時過ぎにスタート。沢を30回以上渡渉しながらどんどん高度を上げて行きます。

残念ながら9時過ぎに見えた山頂付近はすでに雲が上がってきて山頂からの景色は期待薄でした



斜里岳山頂を背に熊見峠に行く新道下山ルート

が、胸突き八丁からは多くの高山植物が出迎えてくれ急斜面を忘れるほど心躍る時間となりました。

北海道でしか見る事の出来ないチシマギキョウ、チシマヒョウタンボク、エゾムラサキツツジ等が咲き誇り、馬の背ではチングルマの群生の中をエゾシマリスが駆け回る姿に癒やされ、あっという間に斜里岳の山頂に。

予報通りオホーツク海側の視界は全く無く海を眺めるという目的は果たせませんでしたが出山で歩く南側の稜線は視界良好で熊見峠までの稜線歩きは久々に自然と笑顔になるような幸せな時間でした。同行した女性二人はマラソンも趣味との事でとにかく下山が速く付いていくのに苦労しましたが、おかげで標準CTより1時間近く短縮して下山。その後の温泉もゆっくり入る事ができ、同行者ともお別れし今回の北海道登山は終了となりました。今回は天候不順で三座登ったあとは連日雨で他の山は断念しました。久しぶりに訪れた故郷斜里町はすっかり様変わりしましたが、斜里岳をはじめ遠くから眺める知床連山や残されている自然は昔のままで、大満足の登山となりました。

旅行の後半は同窓会での48年ぶりの再会、原生花園、網走監獄博物館、旭山動物園、富良野ラベンダー畑等の定番観光名所を巡り11日間2000キロの旅を終え無事に帰宅。

いろいろリサーチして犬連れOKの山も確認、次回はぜひ家族連れで北海道の山々を歩こうと思います。

【山紀行】

初夏の尾瀬漫遊記

— 夫婦山行脚 —

八木 透

初日－尾瀬沼への旅路（2026年6月5日）

水芭蕉の花が咲く季節に尾瀬を歩くことは、長年の夢だった。現役で大学に勤めていたときは、6月初頭に1週間以上の休みを取ることはまず不可能だったため、退職した今年こそが、待ちに待ったチャンスだった。

京都から群馬県側の登山口までは、車で走るとどうしても10時間は必要だ。無理をすればできないはないが、年齢を考え、道中で1泊しながらゆとりをもって行く計画を立てた。何年ぶりの夫婦山行脚である。初日は軽井沢の秘湯に宿を取り、翌朝は早い時間に出発できたおかげで、登山口の大清水には10時前に到着できた。身支度を整え、まず一ノ瀬休憩所までは林道歩きだ。どこまでも続く深い広葉樹の森からは、爆音にたとえられるほどの蝉の声が響き渡る。かつての大開発から逃れた広大な自然林が広がり、人の手が加わっていない大自然が織りなす交響曲のように感じた。

一ノ瀬休憩所からは本格的な登山道となり、しばらくは沢沿いの道を辿る。やがて「十二曲り」と名付けられたジグザグの急登に差し掛かると、蝉の声は収まり、今度は山鳥たちの囀りが合唱曲のように降り注ぐ、豊かな水をもたらしてくれる「岩清水」を過ぎると、やがて登りは緩やかとなり、木道が敷かれた尾根道を進む。5日分の装備を詰めたザックが肩に食い込む痛さを感じるようになる頃、ようやく三平峠に到着した。登りが苦手の妻も遅れずについてきてくれた。峠には木のベンチが置かれ、標高1726mと記した国立公園の標識が立っている。今日の登りはここまでと思うと、ザックが幾分か軽く感じられる。峠からは15分ほどで尾瀬沼の湖畔に着いた。三平下という

この場所には、4泊目に泊まる予定の尾瀬沼山荘が建っている。湖畔へ下りてみると、真正面に雄大な燧ヶ岳が出迎えてくれた。憧れの尾瀬に来ることができた感慨で、しばらくは波ひとつない尾瀬沼の湖面に映る燧ヶ岳の雄姿を眺めていた。すると、わずか数mのところ、白い花々が見えるではないか。水芭蕉の群落である。私たちの存在を見透かすかのように、白い可憐な花が水面に揺れている。「夏の思い出」の歌詞が頭をよぎる。「水芭蕉の花が咲いている、夢見て咲いている水のほitori」。憧れだった情景に身を置くことができた喜びで、足の疲れはいつの間にか消えていた。

湖畔の道を30分ほど歩くと、ようやく今夜の宿の長蔵小屋に着いた。



長蔵小屋

長蔵小屋は明治23年創業の歴史ある木造小屋で、尾瀬の発展と保護に生涯をささげた平野長蔵ゆかりの伝統ある山小屋だ。館内も見事に清掃が行き届き、黒光りした廊下が小屋の年輪を伝えている。長蔵小屋に着いて、50年ほど前の記憶が蘇ってきた。奥鬼怒温泉から鬼怒沼、奥鬼怒山や黒岩岳を経て、12時間ほどかけて長蔵小屋にやっこのことでたどり着いたのは、私がまだ20代のときだった。あのときはいくらでも歩けると思っていたが、この行程だけはさすがに辛かった印象が今も残る。ほぼ半世紀ぶりに長蔵小屋を訪れることができたことは、夢見心地の感慨だった。

夜には小屋に隣接した尾瀬沼ビジターセンター

で、尾瀬の歴史や自然をテーマにした講演があり、眠い目を擦りながらも参加した。講演ではスライドを使用しながら、尾瀬国立公園誕生の歴史や、昭和 35 年に国の特別天然記念物に指定され、さらに尾瀬の自然生態系の価値が認められて、平成 17 年にはラムサール条約湿地に登録されたことなどを丁寧に説明していただいた。尾瀬の自然の豊かさとその素晴らしさは、頭では知ったつもりでいたが、きちんと歴史やかつての人たちの地道な保護活動などを踏まえて解説してもらえたことで、尾瀬の何が大切で、これからの私たちが何を考え、どのように対処して尾瀬の自然を守っていかなくてはならないのかについて、より正確に理解することができた。何にも代えがたい時間だった。

2 日目－ガスと強風の燧ヶ岳



尾瀬沼と燧ヶ岳

早朝からあたり一面霧に覆われ、風も強かった。私は燧ヶ岳へ登る予定だったが、朝食後の天候を見て判断しようと決めた。7 時近くになってあたりが少し明るくなってきたので、意を決して燧ヶ岳を目指すことにした。妻はビジターセンターのガイド付き企画である尾瀬沼周辺のフィールドワークに参加するという。小屋の前で別れて、ひとり長英新道をひたすら歩く。長蔵小屋に連泊する予定なので、不要なものは小屋へ置いておくことができる。ありがたい。少し風が強いが幸いに雨は降っていない。長英新道は比較的良好に踏まれた緩

やかな上りが延々と続く。やがて急登が始まり、しばらく登ると一瞬だったが霧が晴れて、下界の尾瀬沼を臨むことができた。しかしそれもつかの間、すぐに濃い霧に包まれる。さらに登るに連れて風が強くなる。下山してくる登山者が、山頂付近はガスで何も見えず、風ももっと強いので一目散に下りてきたという。そんな言葉を聞くと、モチベーションが下がり、これ以上登っても天候の回復は見込めないと判断し、7 合目付近で下山を決める。未練は残るが、結果的には適切な決断だったと思う。途中で、小屋で作ってもらった握り飯を食べ、13 時過ぎには長蔵小屋へ帰ってきた。この日は、午後は小屋でのんびりして、翌日に備えることにした。

3 日目－尾瀬沼から尾瀬ヶ原へ

今日は晴れた。朝方は少し寒く、部屋の電気炬燵の電源を入れる。6 月は都会では相当気温が上がるが、標高が 1600m の尾瀬沼畔では、朝晩はまだまだ暖房が必要だ。この日は尾瀬沼を反時計回りに半周して、西へ、尾瀬ヶ原を目指す。沼の北側には小さな湿原が点在し、そこかしこに水芭蕉の群落があって快適な登山道だ。



水芭蕉の群落

天気も上々。疲れを感じることなく、沼尻の休憩所を過ぎ、白砂峠への登りに差し掛かる。このあたりから植生ががらりと変わり、コメツガやダケカンバの樹林帯となる。峠から尾瀬ヶ原の入り

口である美晴までは沢に沿った緩やかな長い下りが続く。長蔵小屋を発って4時間弱でようやく美晴の十字路に着いた。ここは数件の山小屋が立ち並ぶ尾瀬の中心部で、行き交う登山者も多い。私たちはここで昼弁当を開け、コーヒーを入れて一休みする。

広大な尾瀬ヶ原の南西の隅には、至仏山の雄大な山容が時折雲の隙間から顔を覗かせる。それにしても尾瀬ヶ原は尾瀬沼とは違って、どこまでも続くような草原の中に、無数の池塘が点在し、さまざまな高山植物が登山者たちの目を楽しませてくれる。ただ、尾瀬ヶ原は尾瀬沼畔と比べて標高が250mほど低いため、水芭蕉の花はすでに終焉近い様相を呈していた。午後になって今夜の宿の温泉小屋を目指す。美晴から北へ延びる木道をしばらく行くと、東電小屋との分岐に至る。



湿原の池塘

そこですれ違った登山者から、私たちが行く先で熊を見たという話を聞いた。尾瀬はツキノワグマの生息地で、相当数の熊がいてもおかしくはない。しかしこれまで、熊による人の被害はまったく報告されていない。おそらく人と熊のテリトリーがきちんと分離できているのだろう。熊を見たという人たちが言うには、熊は草原と樹林帯の境にいたそうだが、人の気配を感じたとたんに、すぐに森へと姿を消したそうだ。尾瀬の熊たちは、上手に人を避けて暮らしているさまがわかるような気がした。ビジターセンターで聞くと、尾瀬

の熊たちは水芭蕉の花が好物で、花の時期が終わると柔らかくなった花をよく食べに来るという。しかし熊の胃腸は消化機能が優れていないので、糞の中には水芭蕉の種が残っているそう。そのおかげで、水面から少し離れた場所にも水芭蕉の花が咲くことがあるという。つまり、熊が水芭蕉の種を運んでくれているというのだ。だから尾瀬の自然を守る人たちにとって、熊は決して害獣ではなく、益獣だという。人と野生動物が共生してゆくための貴重な話で、昨今の、多くの人たちの熊に対する悪印象を塗り替える、まさに美談だと感じた。熊に対して、鹿は草原の高山植物を荒し回るので害獣とされている。そういえば確かに、多くの湿原には鹿除けのフェンスが設けられていた。

今夜の宿は温泉小屋。名の通り、この小屋には温泉が湧いている。尾瀬は水が豊富なので、ほとんどの山小屋にはお風呂がある。自然保護のためにボディソープやシャンプーは使えない小屋が多いが、それでも汗をかいた身体に熱いお湯を浴びるだけで、十分に疲れが取れるような気がする。しかし天然の温泉が湧くのはこの温泉小屋だけらしい。湯船も広く暖かい湯に浸ることができて、身も心も癒される思いだった。

4日目ー再び尾瀬沼へ



尾瀬ヶ原の木道

朝から雲が低く垂れこめ、雨が滴っていた。

尾瀬へ来てはじめての雨だ。予報では天気は徐々に回復に向かうという。それを信じて小屋を出発する。美晴に着く頃には空が少し明るくなってきた。昨日下ってきた樹林帯の登りに差し掛かるころ、ようやく雨が止んだ。ただ気を付けなければいけないのは、雨上がりの木道はとても滑りやすいことだ。案の定、下りで妻がスッテンと転んだ。幸いに怪我はなかったが、注意していても、つい気が緩んでしまう。雲間に太陽が顔を出すようになった頃、川尻の休憩所に着いた。握り飯で腹を満たし、三平下の尾瀬沼山荘までは残り1時間半ほどだ。気を引き締めて歩き出す。尾瀬沼畔の北側の登山道はよく踏まれていて歩きやすいのだが、川尻から三平下へ向かう西側は、思った以上に道が荒れている。途中、木道が崩れている箇所もあり、予想以上に時間を要した。尾瀬に入ってから4日目ともなると、身体が疲れをため込んでいるのか、足首や腰が痛い。トレーニング不足を痛感しながら、鈍った心身に鞭打ちながら、歩くこと90分。14時を少し回った時刻、ようやく尾瀬沼山荘に着く。小屋の主人に聞けば、今夜は私たちを含めて、宿泊客は4人だけだという。お蔭でのんびりと湯船に浸り、痛みが残る足腰を癒すことができた。

尾瀬沼山荘は、山小屋にして珍しく、夕食に本格的なイタリアンを提供してくれることで知られている。ワインを片手に牛肉が入ったリゾットを食していると、ここが人里離れた高層湿原だということを忘れてしまいそうになる。標高1600mでいただくワインは平地よりも酔いが回りやすいのか、酒量は進まず、すぐに心地よい夢の世界へ落ちていった。

最終日－天国からの帰還

朝から快晴。早朝に小屋の周囲を散歩する。尾瀬沼湖畔に佇むと、勇壮な燐ヶ岳の影が湖面に写り、耳に入るのは鳥のさえずりと木々を撫でる風の音だけ。周りに人影はない。ふと、天国とはこんな場所ではないのかと思った。そう。尾瀬沼畔

の静寂な朝は、天国の情景を想像させるような、魔訶不思議な世界だった。

今日はいよいよ最終日、三平峠を越えて大清水の駐車場まで歩けば、このたびの尾瀬行脚の山旅も終わりを迎える。一抹の寂しさを胸に尾瀬沼に別れを告げる。大清水まではゆっくり行っても3時間ほどの行程だ。焦ることはない。今日はこれまで以上にのんびり歩こう。尾瀬のたおやかな自然と天国の情景を噛みしめながら。

10時30分、大清水まで戻ってきた。

長かったようで短くも感じた5日間。大清水は標高1200mで、周囲を広葉樹林に囲まれた地なのだが、バスや車が入るためか、尾瀬沼畔よりは気温が高いように感じる。もうここは、俗界への出口なのだろう。久々に自動販売機で冷たい飲料を購入して、尾瀬の小鳥たちや花々への想いに後ろ髪をひかれながら、車を走らせた。今夜は草津の湯に浸れる。しかし、洗い流すのは汗だけに、身体中に染み込んだ尾瀬の香りと空気だけは、そのままの状態、京都へ帰りたいと思った。

図 書 紹 介

『What's Next?』

終わりなき未踏への挑戦

著 者：平出和也

出版社：山と溪谷社発行

【山書会】松下征文

例年12月第一土曜日はJAC年次晩餐会である。平出和也さんと中島健郎さんと会って話を聞いたのはこの日が最後となった。翌年 K2 西壁に散った世界最強と言われる二人のアルパインクライマーに改めて哀悼の意をささげる。

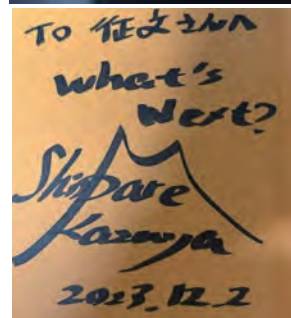
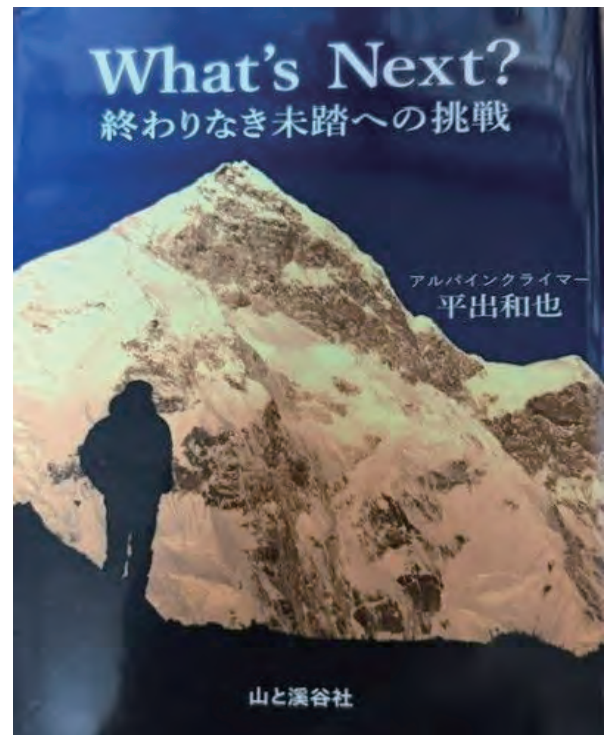
ワッツネクストと聞いた時、あそこ分かっていて、成功するしないは別にして無事生還すると確信していた。「What's Next 終わりなき未踏への挑戦」を改めて読みなおした。

この本は文章と写真だけではなく、各所に埋め込まれている QR コードで映像を見ることができます。という全く新しい世界初の本である。

競歩の選手からアルパインクライマーへの過程が嫌味なく書かれている。読み進めて最初に驚いたのは 2000 年 3 月に、文部省登山研修所の研修で研修生として大日岳に登っている。この時、研修生の平出の目の前で先行パーティが雪庇の崩落で講師と受講生が落ちて学生二名が亡くなった。この時、京都滋賀支部（当時は京都支部）にも大きな衝撃が走った。この時のリーダーは京都支部の KY 氏で「すべての責任は自分にある」と言った。自分はこの発言に素晴らしいリーダーやと感心した！だがそのことはさておいて、その後、平出は大学を中退してヒマラヤへの道を選び、クライミングパートナーを求め誘い計画を進めた。詳しくは紙数の都合で書けないが、2008 年谷口けいさんとインドのカメット南西壁を登り、ピオレドール 初受賞、谷口けいさんは女性として世界初だ。2017 年パキスタンのシスパーレ北東壁を 4 回目の挑戦で登頂して 2 回目のピオレドール受賞。こ

の時のパートナーは中島健郎氏だ。続けて 2019 年パキスタンのラカポシ南壁登頂で 3 度目のピオレドール受賞、すべての壁が新ルートのアルパインクライミングである。登攀の様子は QR コードでその様子がよくわかる。

仕事で撮影したエベレストやアラスカ、南米での動画等は TV 放映され、驚きと感動で素晴らしいの一語に尽きた。彼の山に向き合う考えや姿は決してまねすることではないが、何度か彼や健郎さんの話を聞いて心にストレスなく受け入れることが出来た。



『What's Next? 終わりなき未踏への挑戦』
K2 西壁!! 2024 年 7 月 27 日 k2 西壁登攀中に滑落し、可愛い幼子を残したまま帰らぬ人となった。

アルパインクライミングを目指す諸君、感動をものにしたいあなた。この著書を読んで少しでも刺激を受けて欲しい。

【予 告】：次号で平出さんのクライミングパートナーだった谷口けいさんに関する著書2冊を紹介する。

日本山岳名著全集9より

『山なみはるかに』

著 者：三田幸夫

出版社：あかね書房版

発 行：1963 年

【山書会】松下征文

書店は無くなったが、JR 石山駅前のおはよう堂で見つけて悩みぬいて買った覚えがある。19 歳の給料では高価（600 円）な本であった。比良や鈴鹿、日本アルプスに行く交通費や山道具のことを考えるとおいそれとは買えなかった。

『山なみはるかに』の著者は三田幸夫さんで、1953 年第一次マナスル登山隊の隊長を務め、日本山岳会の第 11 代会長を歴任された。

職場での仕事は毎日二時間ほどで終わり、山の本や小説を読んでいた。そのとき読んだひとつが『山なみはるかに』である。この本には今西錦司の『山岳省察』、桑原武夫の『回想の山山』も収められていて夢中になって読んだ。しかし一番印象に残ったのは三田さんである。マナスルやマウント・アルバーター登山の事が書いてあり、遥か雲の上の人たちで近寄りがたい登山家と感じていた。そのなかに「松尾坂の不思議な幻影を思い返して」という文章があり引き込まれるように読みすすみ雪山遭難の恐ろしさを教えられた。楨さん板倉さんの三人が立山松尾峠付近で猛吹雪に足止めを食い、ビバークとなり板倉勝宣が遭難死亡した時のことである。この遭難は大変な騒ぎとなった。

立山温泉から松尾坂を上り弥陀ヶ原へと至る往時の立山登山道は、今は大規模崩壊で入ることはできない。しかし行ってみたいところである。

当時の自分は山仲間がいなくて単独登山を続けていた。

麻ザイルを京都二条の小西スポーツで買って千石岩や田上の禿げ山でロッククライミングの連習をしていた。

支部蔵書にもありますので是非読んでいただきたい。



山岳名著全集9の中に『山なみはるかに』がおさめられている。

三田幸夫の特装限定本 上巻、下巻



趣味で集めている特装限定本のサイン

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

◎ 芦 生 の 森 探 勝 会

日本山岳会は全国組織です。様々な形で全国に知己が出来ます。「探勝会」は新型コロナの前騒動の前に静岡支部の大島さんからの発案で「富士山の古道を訪ねてみないか」から始まりました。全国様々な地域を巡り現在も続きます。今年は京都・滋賀支部の案内で芦生の森を訪ねます。全国との交流が主ですが、限られた時間の中で芦生の森を訪ねたいと思います。

京都府南丹市美山町を東西に流れる美山川の源流の手つかずの天然林が芦生の森です。日本海気候と太平洋気候が交差し、本州にある植物や動物、昆虫などの生態の8割が芦生の森に存在します。現在は京都大学芦生研究林として管理保護されています。

(日時)：2026年11月5日(木)～6日(金)

(集合)：(現地直接)11月5日(木) 午後4時00分
美山の宿・山菜料理「ハリマ家」

※公共交通で来られる方は、別途対応。

京都駅(正午頃)もしくは園部駅(正午頃)から送迎可能。要申し込み。

(宿泊)：美山の宿・山菜料理「ハリマ家」
電話 0771-77-0720

〒601-0705 京都府南丹市美山町佐々里 1

【行程】

11月5日(木)JR 京都駅八条口もしくは園部駅
(12:00) - 美山茅葺きの里もしくは佐々里峠散策(14:00) - 美山の宿・山菜料理
『ハリマ家 (16:00着・泊まり)』

11月6日(金) 美山の宿・山菜料理「ハリマ家」
(9:00) - 芦生青少年山の家付近駐車場(10:00) - 京都大学演習林トロッコ道 - 芦生青少年 山の家付近駐車場現地解散(14:00)

- JR 京都駅八条口もしくは園部駅(16:00着)

(山行の目安) 体力 2 技術 2 歩行時間は1日目約2時間、2日目約4時間

◎ハイキング装備 雨具 簡単な宿泊備品

(費用概算) 15,000円(ハリマ家1泊2食・2日目昼食弁当・懇親会費含。車交通費は実費別途)

※申し込み締め切りは2026年10月15日(木)。

宿泊に限り(20人くらい)があり出来るだけ早く申し込みください。

※申し込み「氏名」「性別」「住所」「電話」

「年齢」「緊急連絡先」「山岳保険」「参加交通手段(電車・車など)」をご連絡ください。

(申し込み・問い合わせ)

伊原 哲士

【予定報告】

◎日本山岳会京都・滋賀支部

40周年記念式典

今西錦司氏の発案で、1986年に日本山岳会の31番目の支部として「京都支部」が設立されました。日本山岳会京都・滋賀支部は2026年に40周年を迎えます。

最盛期270人を越える支部会員も現在は120人となっています。会員の高齢化も深刻です。団塊ジュニアの支部会員も欠落しています。故に、現行の身の丈に合ったささやかな形で支部40周年をお祝いしたいと思います。支部会員の皆様も是非ご協力をお願い申し上げます
※詳細は『支部だより165号』（2026.12.15発行）に掲載。

(日時) 2027年2月5日(木)～6日(金)

(宿泊) 南禅会館

◎2月5日(木)

【記念講演】南禅寺正徳院 松崎宜晃 閑栖

(記念懇親会) 南禅寺「順正」

◎2月6日(金)

(記念山行) 東山トレール

(観光・散策) 南禅寺界隈

(問い合わせ) 伊原 哲士

沢納め例会

紅葉のソウレ谷沢登り

実施日：11月3日(火)～4日(水)

(担当)：土井文雄

(申込)：(必要事項記入の上メールにて
担当者まで)

(締切)：10月28日(水)

※集合場所・時間は参加者に連絡

鈴鹿10座を歩く

鈴鹿10座は2015年に東近江市が東近江市側から登れる山として北から御池岳、藤原岳、天狗堂、竜ヶ岳、日本コバ、釈迦ヶ岳、銚子ヶ口、イブネ、雨乞岳、御在所岳が選定されました。

東近江側からのルートで10座全てを歩いてみようという企画です。

9月26日(土)

3座目 竜ヶ岳

(担当)：土井文雄

(申込)：(必要事項記入の上メールにて
担当者まで)

(締切)：9月22日(火)

※集合場所・時間は参加者に連絡

10月17日(土)

4座目 雨乞岳

(担当)：土井文雄

(申込)：(必要事項記入の上メールにて
担当者まで)

(締切)：10月13日(火)

※集合場所・時間は参加者に連絡

11月14日(土)

5座目 釈迦ヶ岳

(担当)：土井文雄

(申込)：(必要事項記入の上メールにて
担当者まで)

(締切)：11月10日(火)

※集合場所・時間は参加者に連絡

2026 年度

◎鉄路駅から近江城山逍遙シリーズ

マイカーを使わずに鉄道駅から歩きます。
ネットや参考図書で予習しておく面白く
楽しいです。

10 月度（中旬） 第 7 回

-桃原城山 634m～佐和山城跡 233m-
JR 近江鉄道多賀大社駅集合

担当：松下征文

（日時等詳細は HP 掲示板、JAC 京都滋賀 LINE
にてお知らせします）以後同じ

11 月度（中旬） 第 8 回

-観音寺城山 433m—安土城
JR 東海道線安土駅集合

担当：松下征文

（日時等詳細は HP 掲示板、JAC 京都滋賀 LINE
にてお知らせします）

12 月度（中旬） 第 9 回

-宇佐山城 335m-
京阪石山-坂本線南滋賀駅集合

担当：松下征文

（日時等詳細は HP 掲示板、JAC 京都滋賀 LINE
にてお知らせします）

◎北山探訪

大 段 谷 山

ーリベンジ山行ー

実施日：2026年9月27日（日）

行 程：佐々里峠→大段谷山→往路を戻る

地形図：1/25000 図 「中」

山行の目安：体力 2 技術 2 藪漕ぎあるかも

担 当：八木 透

申 込：9 月 19 日（土）までに必要事項を記入
の上メールにて担当者へ

◎北山探訪

ホサビ山 △750.2m

実施日：2026 年 10 月 25 日（日）

行 程：安掛→ホサビ山→往路を戻る

地形図：1/25000 図 「中」「島」

山行の目安：体力 2 技術 3 藪漕ぎあるかも 担

当：八木 透

申 込：10 月 19 日（月）までに必要事項を記入
の上メールにて担当者へ

<新企画> 「マイナーな修験の山探訪」

（宿泊を伴う山行）

※日程を固定せず、参加希望者と相談の上で
山行日程を決めます。

◎人形山 △1726m

（白山信仰の残影を秘めた伝説の霊山）

実施日：2026 年 11 月初旬頃

申 込：10 月 19 日（月）までに必要事項を記入
の上メールにて担当者へ

行 程：富山県五箇山の登山口から山頂往復
登山の前後泊の予定 2 泊 3 日

山行の目安：体力 3 技術 3 藪漕ぎあるかも

担 当：八木 透

会務報告 支部委員会

第 484 回日本山岳会京都・滋賀委員会議事録

日時：2026 年 5 月 13 日(水)

午後 6 時 30 分～7 時 30 分

場所：鴨沂会館新館 1 階 談話室

出席：13 名 欠席：2 名

* 新任挨拶→前川朋子委員

* 今年度支部委員会体制

- ・監事→八木、須藤
- ・山行部会→全委員と例会を組む会員は全て対象
- ・遭難対策→土井委員
- ・自然保護→幣内支部長、伊原事務局長、野村委員

* 支部だより校正について

- ・割付、レイアウトは担当編集委員、誤字脱字、文書校正は編集担当全員。文字数の統一化が課題。

* 資料保存→USB や DVD の保存媒体の、恒久的、有効化が課題。

* 『丹波・京都・滋賀の山々』出版案について→

- ・出版部数は 1000 部が理想。単価@2,000 円（送料込み）支部支出予算 30 万円
- ・寄附金、ネット等で販売。今後の対応は担当有志（八木・駒井・伊原）で行う。

* 八木監事より→京都新聞での掲載の経緯もあり、新聞広告へ掲載する。連絡先は八木監事が、請け負う。HP 掲載、ネット販売網の確立。既存の八木監事の郵貯口座使用を検討。

* 40 周年→日程、再度調整、予算等は後日。

* 総会→案内葉書の送付を検討。

- ・40 周年記念行事の案内を往復はがきで検討。

* 委員会等出席交通費（一部）支給

委員への委員会等出席交通費支給（令和 7 年度分の出席数に応じて、京都市内 500 円/1 回。京都府内 1,000 円/1 回。京都府外 1,500 円/1 回を支給）。

* 支部だより

- ・支部封筒発注（500 部で 18,000 円）。
- ・印刷無料・封筒実費(6,000 円)が正規料金の支出となる→伊原事務局長からの便宜なくなる。

* 支部ユースクラブ設立について

- ・支部長→予算の再編、リーダーの確立、各支部への見学と情報収集。
- ・候補者があれば考慮する。
- ・山行部長→例会に参加した後、個人山行で力量を高めている会員も候補。

* 支部長より

- ・「山」「山岳」が有料になる。本部、東京支部の状況。
- ・5 月 16 日モンベル奈良店にて支部会員佐々木司氏の講演あり。

* ホームページ

- ・友の会削除完了。年間 3,000 円で改訂作業可（委員会承認）。

* 支部だより広告

- ・岩井サイクル広告停止→ナカニシヤ出版。9 月から空いたスペースがあれば載せる。

* 支部たより担当者

- ・令和 8 年 9 月、12 月、竹下委員、
- ・令和 9 年 3 月、佐々木委員

* 図書

- ・ホームページ蔵書リスト No5 まで。借りる場合はラインを活用、着払いにて郵送。返却時は自己負担で返却。例会にて返却も可。

第 485 回日本山岳会京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2026 年 6 月 3 日(水)

午後 6 時 00 分～7 時 30 分

場所：台風 6 号接近、ZOOM にて開催

出席：11 名 欠席：4 名

* 日本山岳会全国支部連絡会議

（2026/5/27 水 19 時～21 時）報告（伊原事務局長）

* 今後の日程

- ・ワカン山行秩父宮記念山岳賞受賞講演（重廣氏）6/20（土）
- ・令和 8 年度通常総会 6/20（土）→松下委員出席予定
- ・北海道東北支部懇親山行

- 7/10・11（金・土）→京滋支部、申込なし
- ・山岳古道集中山行 2026 in 白山
- 7/24・25（金・土）→参加者大募集
- ・新入会員オリエンテーション 9/5（土）
- ・全国支部懇談会(富山支部立山)
- 9/27・28（日・月）→伊原事務局長欠席
- ・年次晩餐会 12/5（土）
- ・海外登山報告会 2027/3/13（土）
- ・支部連絡会議
- 2026/9/16・2026/12/16・2027/3/17・2027/5/19
（いずれも水曜日）

議題

- ①令和 8 年度事業報告及び決算について
- ②各支部の YOUTH CLUB と YOUTH CLUB 委員会との連絡
- ③JAC アカウントへの移行についての確認→
Google AI 機能はかなり有益なのでお勧め。
- ④ハラスメント相談窓口について
- ⑤危急時についてのアンケート→京滋支部はしっかりできている。
- ⑥質疑
- ⑦各支部から意見要望→支部援助をお願いした。
- ⑧事務連絡

* 旧京都新聞出版関連『丹波・京都・滋賀の山々』 報告（八木監事）

- ・1000 部印刷 1,743,5000 円 @1,585 円
- ・8 月上旬出版予定
- ・寄付を募る。会員には添付メールで寄付を募る
- ・佛大で「山と伝承と信仰」の公開講座(講師：大槻氏、八木監事、他)を 3～4 回開催し、本の売り上げアップを図る。

* 支部 40 周年記念事業について

- ・日程調整中
- ・二日目 座禅→南禅寺会館にて朝食→
東山トレイル山行もしくは南禅寺周辺散策。
- ・昼食は弁当注文。

* 支部ユースクラブ設立について（岩田委員）

- ・山岳部およびワンダーフォーゲル部は、高校のクラブ縮小、大学でも過去の事故が影響するなど、

活動が縮小傾向に。

- ・問題点は大きく 3 つ：若者に厳しすぎると敬遠傾向、指導員の欠如、かさばる費用
→これらのフォローが、ユースクラブ設立の鍵では。継続審議。

* 北海道支部年報『ヌプリ』送料のみで郵送可 （伊原事務局長）

* 入会申し込みの藤田尚子さんと面談予定（幣内支部長、伊原事務局長と女性の委員）

* 会計報告（野村委員）

- ・会費の振り込み期間（6/15～9/30）に留意してもらいたい。

* HP（松下委員）

- ・山行記→写真とかんたんな内容をアップ。
気軽に投稿してほしい。
- ・掲示板を活用してほしい。
アクセスキー：jac（小文字）

* 支部だより（野村委員、竹下委員）

- ・支部だより 163 号は印刷中。ページ数が増えた。また、安全登山ハンドブックと会費振込用紙も同封するため今回のみ送料は上がる。
- ・山行、講習会のタイトルの統一記載を要望。
- ・「金毘羅山」か「金比羅山」か→旧字体と新字体であり、どちらも間違っていない。
- ・山行報告に掲載する名前はフルネームで。

* 図書（竹下委員）

- ・本の紹介文は、No.165 は伊原事務局長、No.166 は幣内支部長、ほか投稿者大募集中。

第 486 回日本山岳会京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2026 年 7 月 1 日(水)

午後 6 時 15 分～7 時 45 分

場所：鴨沂会館新館 1 階 談話室

出席：12 名 欠席：3 名

* 本部総会報告：松下委員

- ・本部会報『山』の郵送料の個人負担問題。会報『山』の紙媒体有料化について異議があった。
会費が実質的に 12,000 円から 15,000 円になる。
高齢会員のオンライン利用に対応が必要。

・富士山冬季登山禁止について。日本山岳会として反対の方向へ。静岡県へ陳情。

・マスコミについて。山岳遭難だけがクローズアップされすぎ。

・会員証スマホ化。

・総会では関西支部重廣恒夫氏の講演。

・会員誘致について。会費の上げ下げに関係なく減少は避けられないのでは？若い世代が盛り上げてほしい。

* 京都・滋賀支部 40 周年記念行事

2027 年 2 月 5 日（金）～6 日（土）

・会場：南禅会館

・講演：松崎宜晃会員（南禅寺正徳院閑栖）

・山行：京都トレイル東山あるいは観光（詳細は 9 月委員会で記念品等を検討）

* 関西支部上高地「山研」懇親山行

2026 年 7 月 18 日（土）～20 日（月）

人数が少ないので参加希望者追加お願い。

* 支部ユースクラブ設立について

年間計画し予算化。山行アピールの必要性。委員会ラインも活用して活動報告。

海外遠征にもつなげたい。

* 議事追加：出版について（八木監事より）

販売販路の事もあり、佛教大学秋季特別講座を開講。講師陣に八木、松下、伊原、大槻の会員 4 名が講演し、講座での販売を行う。また、委員会の各委員、OB から寄付金を募りたい（任意）。出版物は支部会員全員に配布予定。配布方法は八木監事が請け負う。配布に伴い、支部予算と寄付金で作成された事を明記する必要がある。HP にも宣伝を掲載希望。

新入会員自己紹介

◎大森なつみさん（会員 No.17537）7 月入会

初めまして、大森なつみです。

山登りを始めて三年ほどになります。

現在は鈴鹿 10 座エコツアーガイドクラブに所属し、ツアーガイドや登山道整備、植物の保全保護の活動をしています。

また最近環境スポーツイベント

SEATOSUMMIT にも挑戦しバイクやカヤックも楽しんでいます。

アクティブに動くことが大好きです。

どうぞよろしくお願いします。

会 員 異 動

会友入会：

田村 智子(たむらさとこ) 2026.7.20 付
(会員番号 17220 関西支部)

会員退会：

清水 久雄 (会員番号 12757) 2026.5.26 付
宮川 清明 (会員番号 9944) 2026.6.17 付
山本 善丈 (会員番号 16878) 2026.6.30 付

= 次号 165号 予告 =

2026 年 12 月 15 日発行 原稿締め切 10 月 31 日(土)

原稿送付先 編集担当 竹下節子

**令和 8 年度(2026 年度)
支部会費納入のお願い**

平素より支部活動へのご理解とご協力を
賜りありがとうございます。

支部会費未納の方にお願ひします。下記の
通り支部年会費を期日までに納入していただ
きますように宜しくお願ひ致します。

記

支部年会費：3,000 円

納入期限：2026 年 9 月 30 日 (水)

振替口座：ゆうちょ銀行

01070-3-33177

日本山岳会京都・滋賀支部

他の金融機関から振込みの場合は
店名 一〇九店 (イチゼロキュウ)
当座 0033177

= あとがき =

「ゆっくり歩き」

たくさん山を歩いてきて思う。
なにを観て歩いてきたのだろうか。

牧野富太郎が知らしめた、あまたの植物。
もう少し興味を持って歩いていていれば
と、今更ながら思う。富太郎は腰を低くし
てしゃがんで膝をつき、時には寝そべり、
細やかな視線をあまたの草木花にそそぎ歩
いた。・・・

ごく小さな自然の広がり、ふと気づく
ことがある。目で確認できない花も意図し
て観ると大輪の花に見える。拡大すると、
小さな花中にマクロの華やかさに目を見は
ることもある。また葉っぱを裂いてみると、
ノコギリの歯のような形になる葉っぱがあ
ることも。モミジの葉下からチロチロと垂
れ下がる赤い花があること。品種によって
色が違うこともおそわった。

私はずっと知らないでいた。いつもそば
にいて、出会っていたはずなのに知らない
ことのほうが広がってゆく・・・

昨年の沖島五支部合同懇親山行の登山道
整備、清掃、植物保護と、下見から始まっ
た興味である。

植物の知られざる変幻に出会う度に嬉し
くてしょうがない。

「ゆっくり歩き」の楽しさをおそわった。

—竹下節子—

日本山岳会京都・滋賀支部会報 「支部だより 164 号」

発行所 幣内規男方

日本山岳会京都・滋賀支部

発行者 幣内規男

編集者 竹下節子

印刷 〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

(株)北斗書房北斗プリント社 北斗書房

TEL 075-791-6125 FAX 075-791-7290

日本山岳会創立 120 周年記念出版



日本山岳会の歩みと 近代登山史

JAC 会員
見玉茂 著

近代登山の歴史とともに歩んできた会の歴史を、貴重な資料とともに振り返る記念碑的一冊!【A5判 410 頁上製◇5月9日刊行】

一般価格
6,050 円 のところ…
会員特別価格
4,920 円(税込)*
▶まとめ買いでさらにお得!

*1冊あたり 4,620円+送料全国一律 300円(冊数問わず)



ご注文は
こちら▶



ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <https://www.nakanishiya.co.jp/>

電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

表示は税込価格です

京都一周 トレイル マップ&ガイド

全5コース・
14ルートを楽しむ

京都一周トレイル会 公認

京都トレイルガイド協会 編

※本書の売上の一部をコース整備協力費として
京都一周トレイル会へ寄附します。

交通機関から歩きやすい
14ルートに分けて全コースをガイド!
難易度・コースタイムも掲載。
自分に合った歩き方を楽しめます。

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

京都ガイド本大賞
2022リピーター賞 受賞!

1,540円(税込)・A5判・144頁